

口永良部島の火山活動解説資料（平成 24 年 1 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）から 1（平常）に引き下げ＞

口永良部島では、昨年（2011 年）12 月 11 日から火山性地震の回数が多くなり、火山活動が高まった状態となりましたが、12 月 25 日頃から回数は緩やかに減少し、1 月 5 日以降は少ない状態で経過しました。その他のデータには、特段の変化は認められません。

これらのことから、火山活動は低下しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、20 日 11 時 00 分に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（平常）に引き下げました。

新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

○ 1 月の活動概況

・地震や微動の発生状況（図 1～3）

火山性地震は、昨年（2011 年）12 月 11 日から多い状態となりましたが、12 月 25 日頃から回数は緩やかに減少し、1 月 5 日以降は少ない状態で経過しています。火山性地震の月回数は 137 回（2011 年 12 月：480 回）でした。震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

火山性微動は観測されませんでした（12 月微動継続時間：26 分）。

・噴煙など表面現象の状況（図 2、図 4～6）

遠望観測では、新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上 100m 以下の高さで経過しました。

11 日に現地調査を実施しました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、前回（2012 年 12 月）と比較して新岳山頂付近及び西側斜面の地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

・火山ガスの状況（図 2）

12、13 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり 50 トン及び 100 トンと、前回（2011 年 12 月 9 日：200 トン）の調査と比較して、増加は認められませんでした。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 2 月分）は平成 24 年 3 月 8 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています。（承認番号：平 23 情使、第 467 号）

・地殻変動の状況（図 2、図 7～図 9）

GPS 連続観測では、新岳を挟む七釜－SDW（産）の基線で 2010 年 9 月頃から伸びの傾向が続いていましたが、2011 年 9 月頃から鈍化しています。

（産）：産業技術総合研究所

- 1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

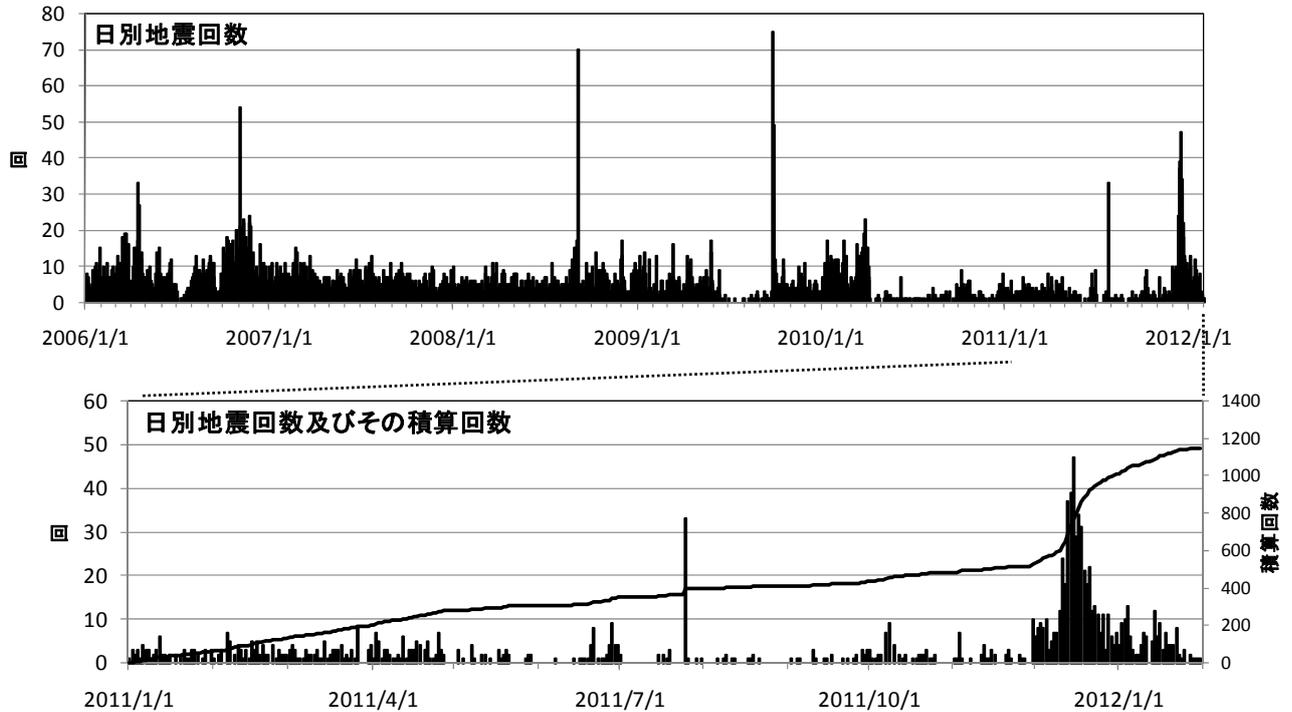


図 1 口永良部島 火山性地震の発生回数（2006 年 1 月 1 日～2012 年 1 月 31 日）

火山性地震は、昨年（2011 年）12 月 11 日から多い状態となりましたが、12 月 25 日頃から回数は緩やかに減少し、1 月 5 日以降は少ない状態で経過しています。

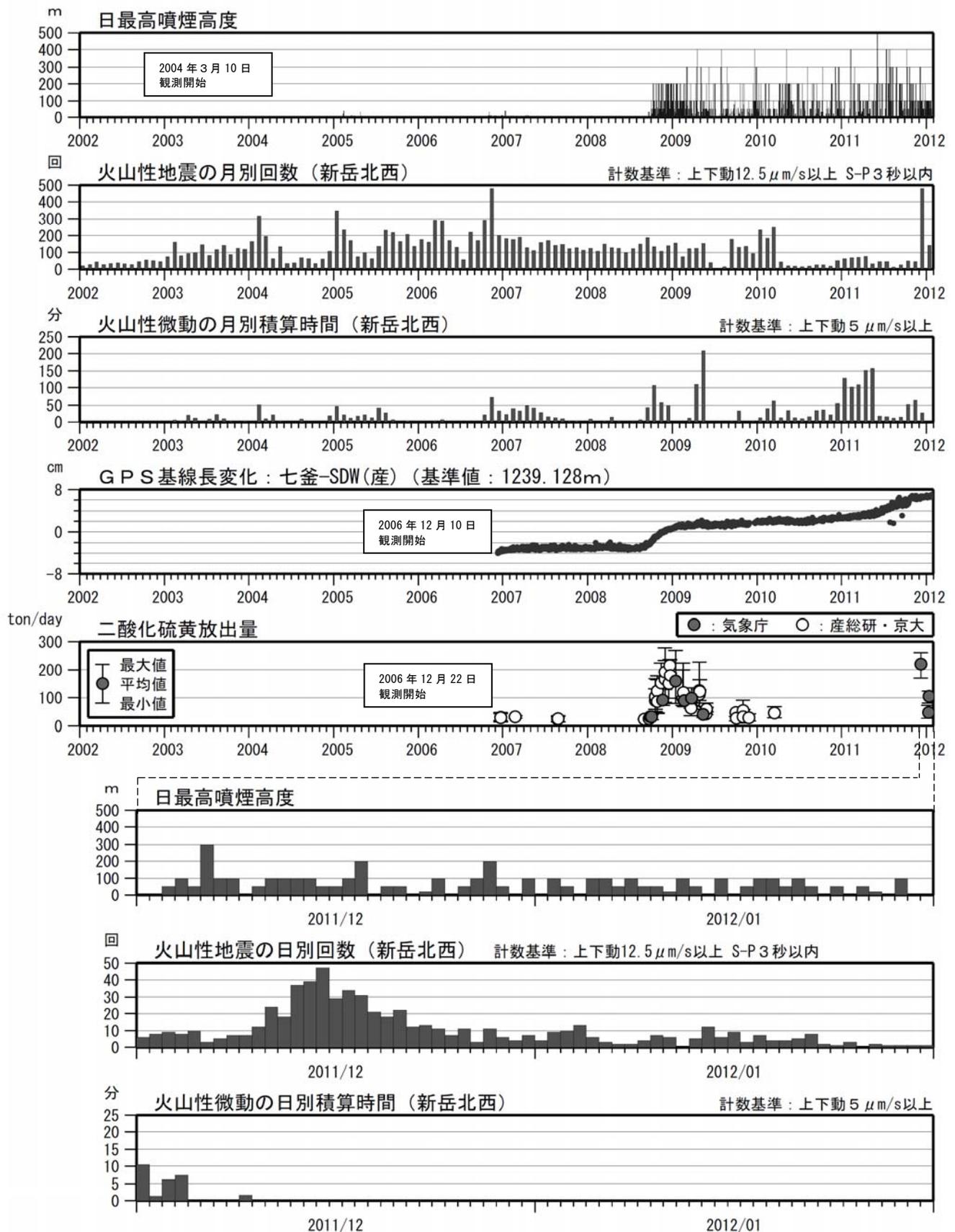


図 2※ 口永良部島 火山活動経過図（2002 年 1 月～2012 年 1 月）

< 1 月の状況 >

- ・新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上 100m 以下の高さで経過しました。
- ・火山性地震の月回数は 137 回（2011 年 12 月：480 回）でした。
- ・火山性微動は観測されませんでした。
- ・12、13 日に実施した現地調査では一日あたり 50 トン及び 100 トンで前回（2011 年 12 月 9 日：200 トン）と比べて、増加は認められませんでした。

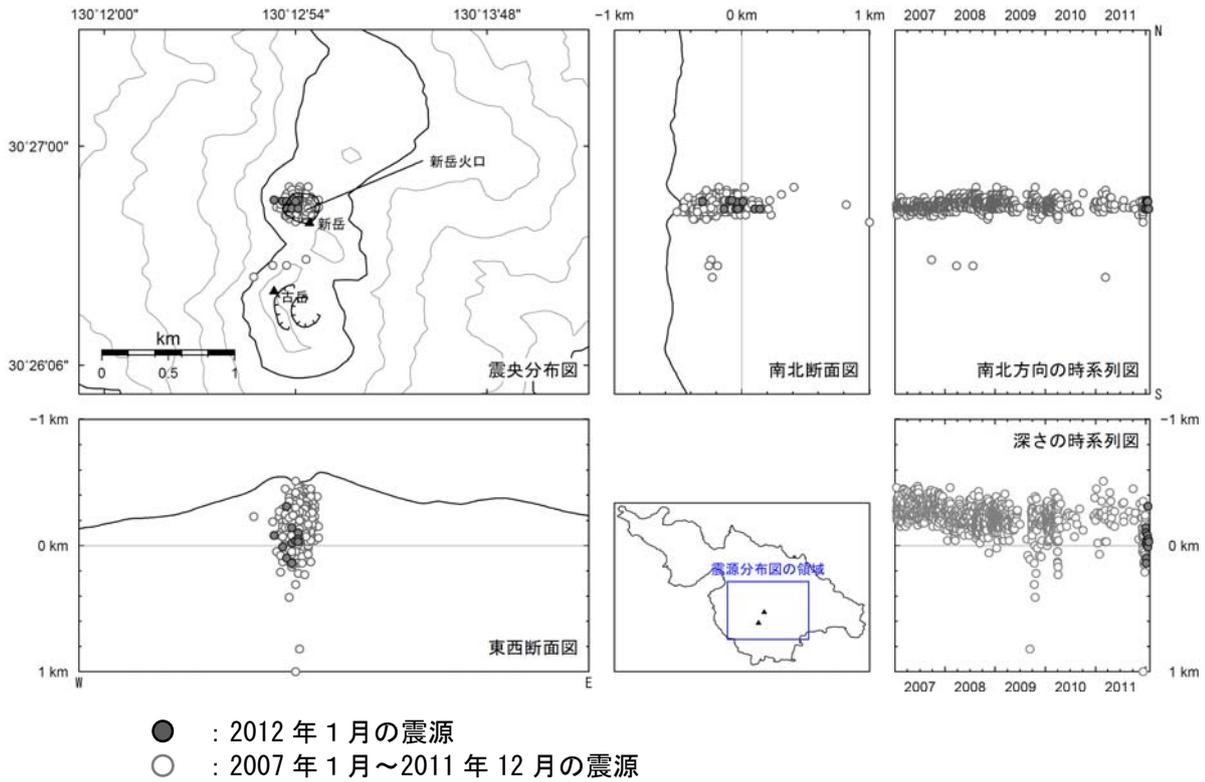


図 3※ 口永良部島 震源分布図（2007 年 1 月～2012 年 1 月）
 < 1 月の状況 >
 震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。



図 4 口永良部島 噴煙の状況（1 月 8 日、本村西遠望カメラによる）

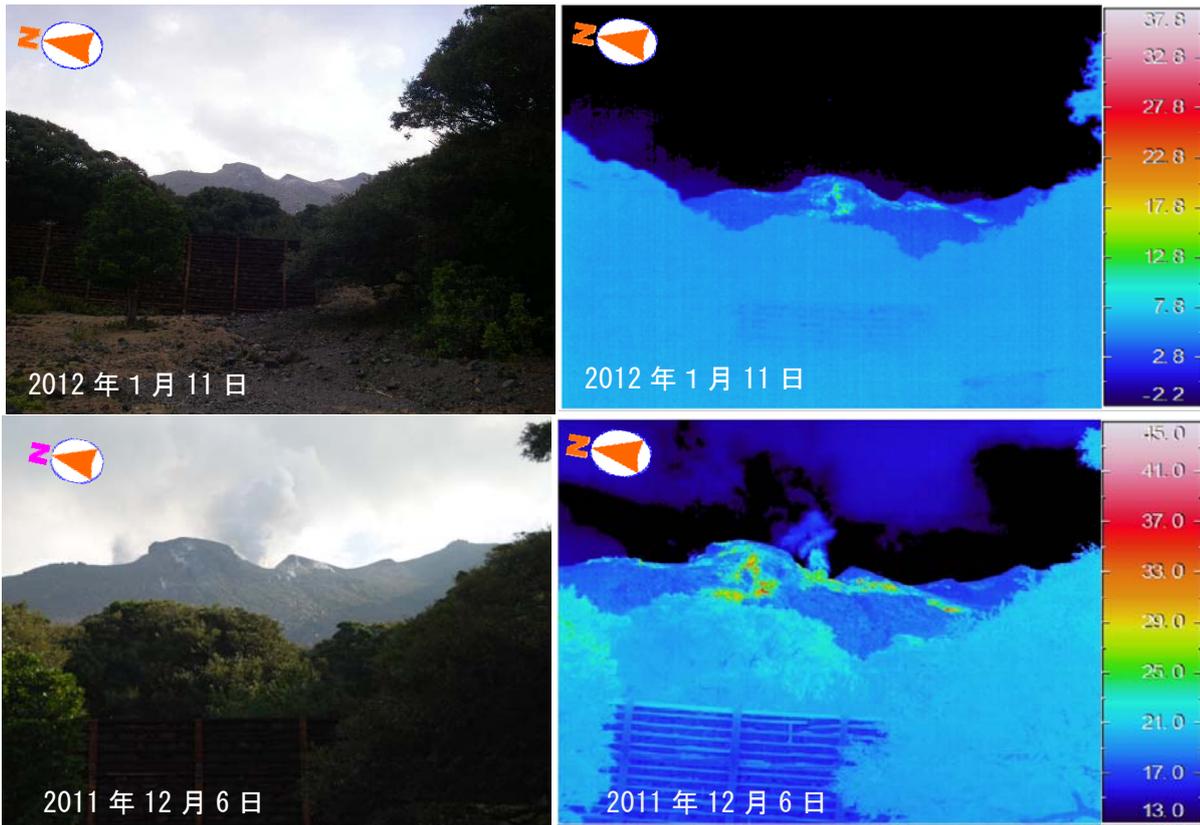


図 5 口永良部島 新岳山頂及び周辺の状況（図 6 観測点 1 より撮影）

11 日に実施した現地調査では、前回（2012 年 12 月）と比較して新岳山頂付近及び西側斜面の地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

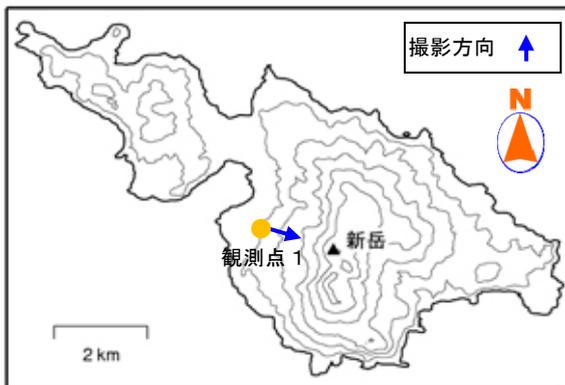


図 6 観測場所と撮影方向

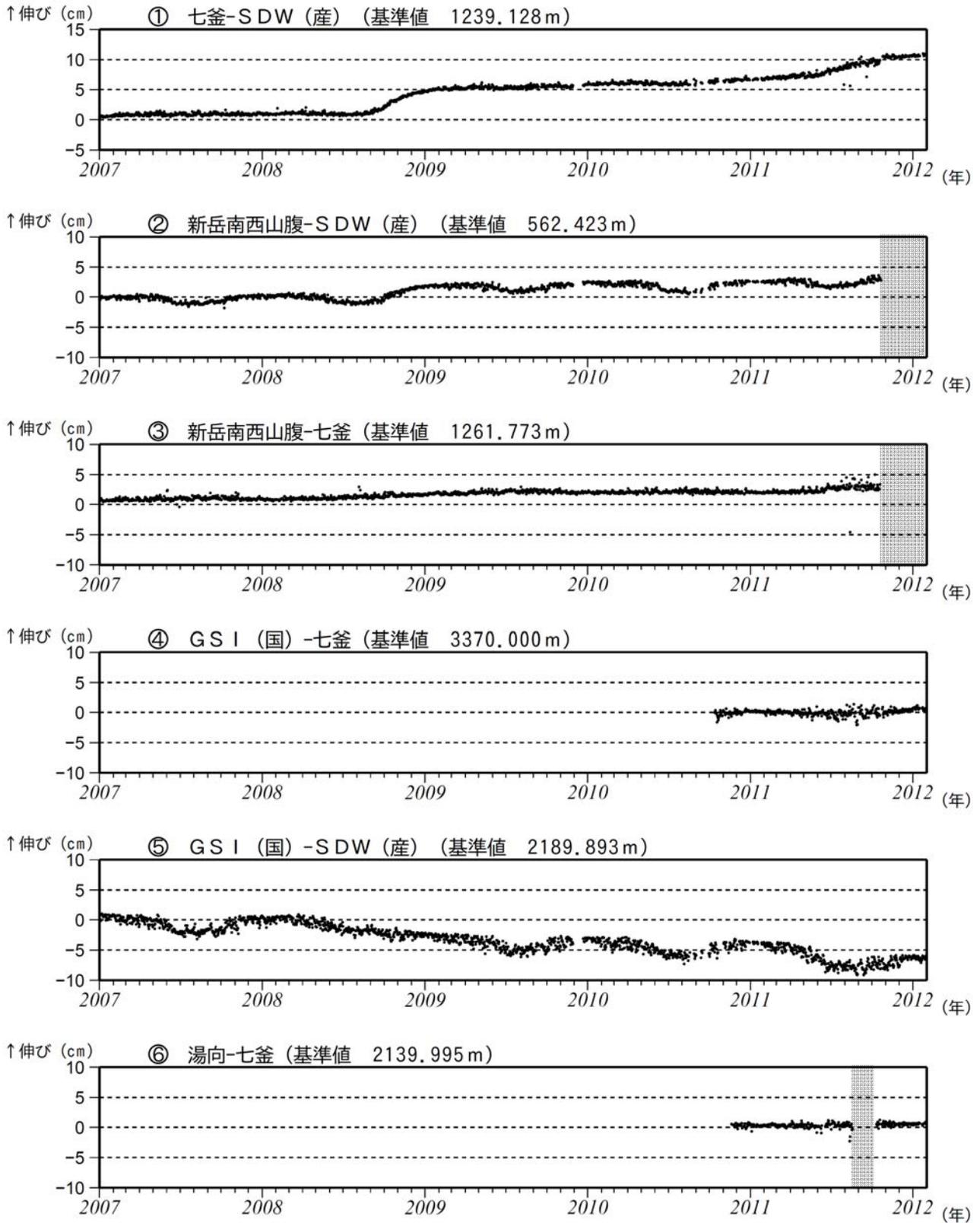


図 7* 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化（2007 年 1 月～2012 年 1 月）

GPS 連続観測では、新岳を挟む七釜-SDW（産）の基線①で 2010 年 9 月頃から伸びの傾向が続いていましたが、2011 年 9 月頃から鈍化しています。

この基線は図 9 の①～⑥に対応しています。

2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。また、掲載する基線の一部変更しました。

灰色部分は観測点障害のため欠測。

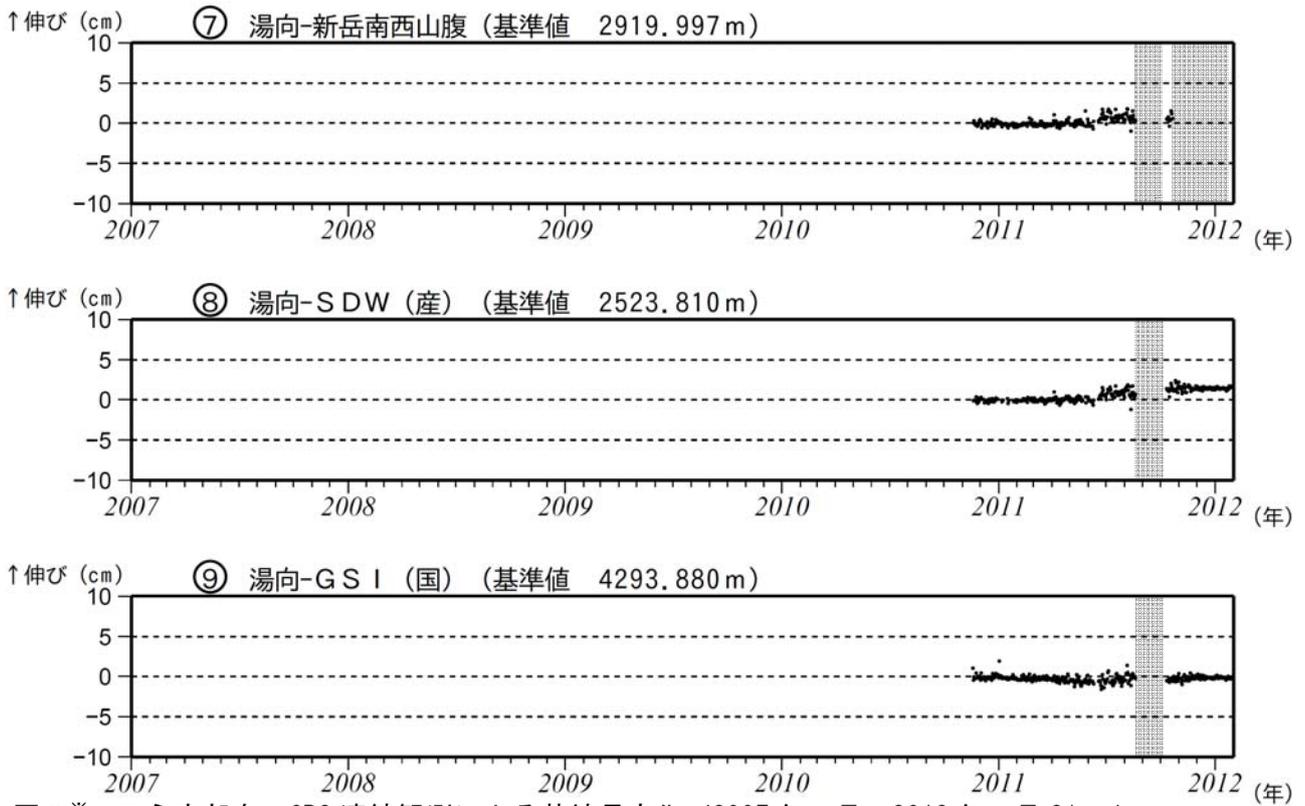


図 8※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化（2007 年 1 月～2012 年 1 月 31 日）

火山活動に伴う特段の変化は認められません。

この基線は図 9 の⑦～⑨に対応しています。

2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。また、掲載する基線を一部変更しました。

灰色部分は観測点障害のため欠測。

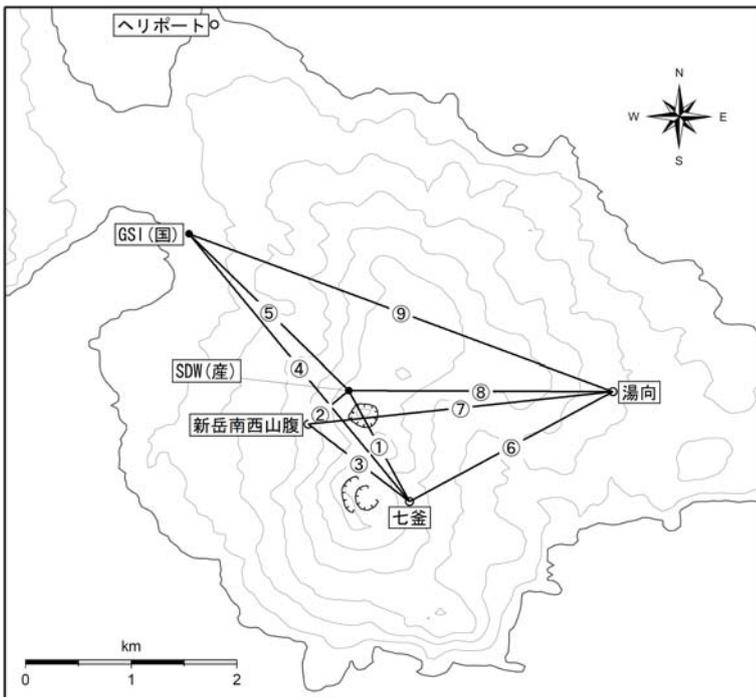


図 9 口永良部島 GPS 連続観測点と基線番号

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院、(産)：産業技術総合研究所

ヘリポート観測点は現在調整中です。

